

解 答



問一 節句

問二 ひそかに私が自分の蔵書とめずらしい小鳥の卵とを交換して集めていることに気づいた兄が、その本がないことを知っていながら貸してくれと私を困らせ楽しんでいるから。

問三 作文 問四 (1) 3 すら 5 だけ

(2) 他の人の文章から盗み、自分のものとして発表すること。

問五 姉たちの作文帳から抜き取った庭の静かな景色の描写がすぐれていた点と、頭が痛くなるほど「私」が勉強したという感心な点。

問六 前 出鱈目の綴方がいつも皆にほめられたこと

後 綴方に真実を書くとはよくない結果になること

問七 (1) 人間の偉さに違いがあるから。

(2) 人間的に優れた人は、戦争を怖がり、逃げるようなことはしないということ。



問一 歴史に「もしも」を導入することは、未来について想像する知性の使い方と同じであり、一人の人間が世界の運行にどれくらい関与することができるかについて考えることでもあり、人生を充実させることになるから。

問二 自分が起点になって歴史を転換させることだけでなく、日常生活の中で小さなことを一つずつ積み重ねることで歴史の一端を担えるのではないかという謙虚な姿勢をもつことでも、人生を充実させられると思う。



問一 1 めでとう〔ございます〕 2 せこう〔ございます〕 3 さむう〔ございます〕

4 やぼう〔ございます〕 5 おおきゅう〔ございます〕

問二 2・4

問三 「せこい」「やばい」は、現代の話しことばで、しかも、俗で品のない言い方なので、「ございます」というていねい語とはなじまないから。

解 説



出典は、太宰治「思い出」。

問一 1 行めに「ひな祭り」とあります。五節句の一つ、三月三日の上巳の節句。桃の花を供えるところから「桃の節句」とも言います。一月七日＝人日、五月五日＝端午、七月七日＝七夕、九月九日＝重陽。

問二 「私」が学校の生徒たちに蔵書を与えることでめずらしい鳥の卵を集めている「秘密の取引」を兄に感づかれてしまいます。兄が貸してくれという二冊の本はすでにありません。ないことを知っていながら、「ないと言えばその本の行先を追及する」素振りを見せ、嘘をつきつづける「私」を笑って追いつめようとするところに兄の「意地悪さ」が表れています。

問三 ——線部を含む同一段落を読み進めば、文章を書くこと＝作文ではないかという推理は可能です。「姉たちの作文帳から抜き取った」(22行め)という表現に出会って確定です。

問四 (1) 副助詞「さえ」の文法知識を問うというよりは“語感”的に意味を理解・判別できるかが試され、また、言語生活が問われています。

(2) ——線部の次の行にある「…一等当選作だったのを私がそっくり盗んだものである」という表現から推理可能です。「姉たちの作文帳から抜き取った」も有力なヒントです。

問五 綴方に嘘・出鱈目、そして「神妙ないい子」を書くとはめられたという文脈ですから、「秋の夜」という作文では、「姉たちの作文帳から抜き取った」「庭の描写」と「頭のいたくなるほど勉強した」ことの二点。

問六 「しかし」直後に「綴方に真実を書き込むと必ずよくない結果が起こった」とありますから、直前はこの逆。

問七 (1)(2) 矯正すべき問題点があるとすれば、「戦争が起こったならまず山の中へでも逃げ込もう」という点と「先生も人間、僕も人間」「人間というものは皆おなじ」という点であることがわかります。人格であれ能力であれ優劣があり、社会には“格差”や“差別”があることを認めさせ、人間として優れていれば戦争になって逃げるようなことはしない、怖がり逃げるような人間は、人間として劣ることを教えようとしています。



出典は、内田樹「もしも歴史が」。

問一 ——線部直後に「どうしてかという、過去の『(起こってもよかったのに) 起こらなかったこと』について想像する～未来の『起こるかもしれないこと』を想像する～同じ～からです」と理由説明の文があります。歴史（過

去)においても、未来においても、予測は不可能であることを述べ、また、「一人の人間の、なにげない行為が」歴史を変える可能性があることを述べたうえで、再び、「過去に起きたかもしれないことを想像すること」がたいせつなのは、「未来について想像するときと、知性の使い方が同じだから」だと最初の理由説明とほぼ同じことを繰り返しています。そして、「歴史に『もしも』を導入するというのは～一人の人間が世界の運行にどれくらい関与することができるのかについて考えること」だと言い換え、「自分の歴史への参与」の可能性について想像し、考えることが「人生」を充実させるだろうと文章を結んでいます。

問二 「自分なりに考えて述べなさい」とありますから余計な解説は致しません。『自分』と『歴史』と『人生の充実』の関係について「自分なりに考えて」ください。解答例はあくまでも一例。真似をしないように。

㊦

問一 形容詞に「ございます」を接続するとき、活用形「〜く」+「ございます」の「く」が「う」に変わります。「さむく+ございます」→「さむう+ございます」。また「う」の直前にくる音によっては、「めでたく」→「めでたう」→「めでとう」、「やばく」→「やばう」→「やばう」、「おおきく」→「おおきう」→「おおきゅう」のように音が変化します。

問二・問三 「せこい」は、役者・寄席芸人の隠語、「やばい」は盗人・香具師などの隠語。公式の場で使える言葉ではありません。このような卑俗ともいえる言葉に「ございます」という丁寧語をつけても不自然なだけです。